清流

西粟倉中学校だより
令和７年 12 月 17 日（水）発行

15 の春の自立を地域とともに目指す活力のある学校

（学校教育目標）
未来を拓き　たくましく生きる力の育成　　～　自律　協働　挑戦　～

（校長雑感）

学校教育目標の中に「協働」という言葉があります。「協働」とは、「お互いが力を出し合い、共通の目標や課題を一緒に解決すること」を意味します。本校ではその姿を「『みんなちがってみんないい』互いを認め合い高めあう」と表しています。これからの社会では、この協働する力がますます求められると言われています。

では、協働するために欠かせないことは何でしょうか。私は、その土台となるのは「お互いを尊重し合うこと」、そしてそれを形として表すのが「言葉づかい」だと考えています。言葉は、相手を思いやるための手段であり、同時に相手を傷つける可能性も持っています。だからこそ、どう使うかがとても大切です。

幼稚園や小学校で、子ども同士の会話の中に相手を否定したり傷つけたりする表現が見られることがあると聞きました。中学校でも、同じような場面が見られることがあります。そのような言葉を耳にすると、とてもつらい気持ちになります。小学校で学んできた「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」の考え方は、単なる幼い学習ではなく、人と関わるうえでの大切な原点です。小学校で学んだ大切な視点ですが、中学生になっても変わることはなく、むしろ年齢が上がるからこそ意識していきたいものです。

金子みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」の一節にある「みんなちがってみんないい」という言葉は、学校教育目標の説明文にも掲げられています。それぞれの良さや考えの違いを認め合う視点をもてば、見える世界は大きく変わります。意見が違うからこそ互いに学び合え、よりよい方向へ進んでいくことができます。まさに協働とはその積み重ねです。

先日「人権」について考える機会がありました。講演の中で子どもが「人権って空気みたいなもの」と答えたという話を聞きました。「あるのが当たり前で、なくなったら生きられないもの」という表現に、とても深いものを感じました。人権の視点から見ても、相手を認め、尊重し、思いやる言葉を選ぶことは欠かせません。

子どもたちが健やかに成長し、安心して学校生活を送るために、まずは「相手を意識した言葉づかい」を大切にしていきたいと思います。学校と家庭が力を合わせ、子どもたちに寄り添いながら、一つひとつ積み重ねていけたらと願っています。

今年度より右ページの「学校の様子」は HP で代替しています。１１月は、12 件の記事が HP に上がっています。HP も是非ご覧ください。（職員室、校長室前の掲示板にも掲示しています。）

西粟倉中学校　　（学校の様子）

https://www.vill.nishiawakura.okayama.jp/wp/nishiawakurachugakko/